

VOL. 129

ネパール：新型コロナウイルス感染症
対策事業

日本：令和2年7月豪雨災害被災者
支援事業

ジンバブエ：教育環境改善支援事業

世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985 2021
News 9



ネパールで
新たな活動をスタート
～医療従事者を支えるADRAの支援～

ネパールガンジ市への医療資機材支援

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGO ADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。

ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業
→ p.6

ETHIOPIA エチオピア

ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生事業

8月から新事業として新型コロナウイルス感染症対策の衛生啓発活動、学校の手洗い場設置と衛生クラブの活動支援、難民へのトイレ建設研修などを実施しています。人々がこれまで以上に自立して衛生改善を行えるようなサポートをしていきます。



建設経験のある難民によるトイレ建設

AFGHANISTAN アフガニスタン

バーミヤン県における教育環境改善事業

子どもたちの教育環境改善を目指し、バーミヤン県で学校建設を開始しました。コミュニティから提供された土地を整備し、校舎やトイレ、学校の外周壁などの基礎工事をしています。バーミヤン県は冬が厳しいため、暖かい時期に建設作業が終わるように事業を進めています。



校舎の基礎工事を開始

JAPAN 日本

令和2年7月豪雨災害被災者支援事業 → p.6

NEPAL ネパール

新生児・小児の保健環境改善支援事業

ネパール国内でも新型コロナウイルス感染症が拡大しており、商店の営業時間制限や移動規制などの影響が出ています。必要な感染対策を取りながら、女性地域ヘルスボランティアへの栄養研修等の活動を実施しています。



女性地域ヘルスボランティアへの栄養研修の様子(中央は駐在員の犬西)

教育支援<ナマステ基金>事業

新型コロナウイルス感染症対策事業 → p.4-5

MYANMAR ミャンマー

教育支援事業

国内情勢が不安定な中、現地スタッフの安全を第一に考慮し、教育支援事業を実施しています。この度、事業の対象5校で校舎建設が完了し、子どもたちはより安心・安全な学習環境で学べるようになりました。



建設した新校舎



新校舎の前に並ぶ児童と教師

ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。
●日本NGO連携無償資金協力(ジンバブエ、ネパール、アフガニスタン、ミャンマー)
●特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(エチオピア、ネパール、日本国内)
●公益財団法人イオンワンパーセントクラブ(ミャンマー)

● ADRA Japan 実施事業
■ 世界のADRA支部がある国と地域

ADRA JAPANの活動

NEPAL ネパール

「逃げ出したいと何度も思った」 ネパール医療従事者が直面した現実を 変えるために新たな支援をスタートします



マスクや消毒液など必要に応じて支援

ADRA Japanは2019年より、ネパールの中でも医療体制が脆弱なインド国境沿いのバンケ郡において保健医療の充実を図り、特に母子の健康が守られるように、新生児・小児保健事業を行ってきました。ところがこのバンケ郡で、ネパールで最初の新型コロナウイルスの感染爆発が起き、私たちの活動も大きな影響を受けることになりました。

2020年3月末からの4ヶ月間のロックダウン（行動規制）措置中は、集会などが禁止され、予定していた研修やワークショップはすべて中断されました。全国的な

ロックダウン解除後も、感染状況によって地域別のロックダウン措置が取られ、完成を急ぎたいヘルスポスト（村の診療所）の建設作業も断続的となりました。地域の保健システム強化に取り組んでいた最中の感染拡大には悔しい思いを抑えられませんでした。

しかし私たちは、さらなる悔しさに直面することになりました。バンケ郡には、ネパール南西部の公立基幹病院という重要な役割を担う大きな病院（ベリ病院）があります。この地域で重症患者を受け入れることのできる唯一の公立医療施設であるこの病院は、第1波から継続して新型コロナウイルス感染症に感染した患者を受け入れてきました。第2波のピークである2021年5月時点で250床を整えましたが、それでもコロナ病棟だけでは足りず、屋外テント内のベッドや廊下、床を含めて1日350人の新規入院患者を受け入れた日もありました。それでも患者が助からず、家族が医療従事者に



地方の村でもワクチン接種が始まる

暴力を振るう事件もありました。

また、バンケ郡の中心都市ネパールガンジ市の保健所が運営する隔離施設は満床の状態が続き、入所できない陽性者が亡くなってしまいうケースもありました。保健所では、保健所職員のPPE（個人防護具）が不足している中でも患者ケアを続けるしかなく、副所長も新型コロナウイルス感染症に2回感染し、感染中も隔離施設で4日間患者ケアに当たりました。このようなことは珍しくなく、「逃げ出したいと何度も思った。」それが副所長の本音でした。

感染拡大を防ぐために国がとった手段は、厳しい行動規制を伴うロックダウン。2020年3月末から4か月続いたロックダウン中は保健衛生や母子保健に関する啓発を行うこともできず、健診を受診する妊婦さんも減少しました。その結果、流産や子どもが出生時に亡くなってしまいうことが増えてしまいました。

露天商や日雇労働などで生計を

立てる多くの人は日々の糧を得ることができず、以前に増して生活が困窮しています。

このような中、ADRA Japanは、医療従事者に対するマスクや防護服などの衛生用品を配布したほか、PCR検査キットの提供や検査技師の研修を実施してきました。また、クラスターの発生を避けながら保健医療従事者の研修を再開するため、感染対策に必要な資材を提供し、研修参加者や講師の体温測定、マスクの着用、消毒液の使用やソーシャルディスタンスの確保の必要性を伝えてきました。

第1波の際は総額100万円ほどの支援を届けることができました。その後、第2波の後も、バンケ郡の全保健所に対し、マスク800枚、消毒液80本、体温計80本、パルスオキシメーター31個、手袋40箱、物品消毒剤10本を届けることができました。

しかし、これらの支援は、ネパール保健人口省や州保健局、市町村保健所、保健医療施設からADRAに寄せられた支援要請のほんの一部に届いたに過ぎません。一番苦しかった第2波の最中はすべての必要に応えることができず、医療資機材が足りない中でも保健医療従事者が感染の恐怖と闘いながら最前線で働く姿を見て、大変心苦しう思いました。

2021年8月上旬、ネパールの感染者数は一日2,500人～4,000人の状態が続いていますが、2回目のワクチン接種を終えた人の割合は8月5日の時点で人口の約7.6%に留まっており、第2波の再拡大（あるいは第3波）は避けられないだろうと言われています。

ADRA Japanは7月からジャパン・プラットフォームの資金も用いて、前述したベリ病院と隔離施設への医療資機材やPPEの提供、在宅療養患者への体温計や手指消毒剤などの提供、さらに女性地域ヘルスボランティアやラジオ放送を通じた人々への啓発活動を実施し始めました。また、コロナ禍でも妊産婦や子どもたちが産前産後健診や予防接種などの保健医療サービスを受けられる環境を整えられるよう活動を広げていきます。

これ以上新型コロナウイルス感染症による感染状況が悪化しないよう、また起こってほしくないですが第3波が起きてしまったときに必要な支援を必要なタイミングで届けることができるよう、皆さまからの応援、そして温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ADRA Japanは、世界最大規模の非政府系支援団体です。世界のほとんどの国で様々な活動を行っておりますが、その日本支部（ADRA Japan）でも、多くの発展途上国で様々な活動を行っており、20歳代からの若い人たちが第一線に立って活動しています。私がかかわっている口唇口蓋裂手術の活動もその一つで、患者さんとその付き添いの人は、交通費から滞在中の食費・宿泊費、医療費等、全て無料で手術を受けることができます。これらの費用は、全て、この活動に賛同していただける方々の寄付によって賄われています。



検査技師への検体採取研修の様子



ADRAからの医療支援物資を確認する医療者と駐在員

クレジットカードによるお支払いでネパール事業にご支援いただける方はこちら



ご支援をお待ちしています

ADRA Japanを
支えてくださる方
をご紹介します！



吉本信也さん
医師

——ADRA Japanとの関わりについて教えてください。私は1980年後半より東京衛生アドベンチスト病院で週に1回診療いたしておりますが、1993年か4年頃、ADRA Japanからアドベンチスト病院へ「ネパールでの様々なボランティア活動に加えて医療活動を行いたい、誰か口唇口蓋裂の手術を行う医師はいないか？」という問い合わせがあったとのことで、たまたま口唇口蓋裂の手術を専門にしていた私にお話が来ました。勿論二つ返事でOKし、1995年3月に第1回目のミッションに参加しました。

——ADRA Japanの魅力について、ADRAと関わっていて良かったと思う時があれば、教えてください。以来、20数年間、毎年1回2週間ほど、30名前後の医療チームの一員としてネパールを訪問し、ネパールでお金が無いため手術を受けられないでいる赤ちゃんから大人まで、口唇口蓋裂の患者さん方を延べ千数百名、（無料で）手術させていただきました。自分の好きな口唇口蓋裂の手術を通して、少しでも多くの人の役に立てるという経験をさせていただいていることに感謝しています。また、多くの日本やネパールの関係者とも知り合いになれました。更に、日本ではほとんど見ることのないような難しい患者さんを治療させていただく機会を与えられたことも貴重な体験でした。

——まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします。

ADRAは、世界最大規模の非政府系支援団体です。世界のほとんどの国で様々な活動を行っておりますが、その日本支部（ADRA Japan）でも、多くの発展途上国で様々な活動を行っており、20歳代からの若い人たちが第一線に立って活動しています。私がかかわっている口唇口蓋裂手術の活動もその一つで、患者さんとその付き添いの人は、交通費から滞在中の食費・宿泊費、医療費等、全て無料で手術を受けることができます。これらの費用は、全て、この活動に賛同していただける方々の寄付によって賄われています。

——ADRA Japanへのメッセージをお願いします。

発展途上国では、口唇口蓋裂に限らず、まだまだ、手術を待っている患者さんは多くいます。この活動が、今後も続きますよう祈っています。

アドラの
チカラ

JAPAN 日本

豪雨災害から1年、熊本県人吉市は今

九州各地に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨が発生してから、1年が経ちました。最も被害の大きかった熊本県人吉市は、「まるで津波被害の後のようだ」とまで言われ、甚大な被害を受けた家屋が4,000件超。加えてコロナ禍のためにボランティアが十分に集まらなかったこともあり、洪水後の家の片付けや復旧作業が長期化していました。

ADRA Japanは昨年の9月から今年の6月末まで、地元の建築士の方が立ち上げたボランティア団体「アーキレスキュー人吉球磨」と連携し、家屋の復旧

に関わる支援を行いました。また、被災した住宅地に仮設の公民館を開設。そこで無料カフェを運営し、地域の方々の集まる場所を提供してきました。洪水被害の後にその家を修理して住むことを決めた方々には、カビの測定や除去の仕方など専門的な観点からの助言を差し上げ、「とても助かりました」と喜ばれました。

現在、人吉市では大きく被災した家屋の解体が進む一方、お店や旅館は少しずつ再開しています。ADRA Japanは人吉市の復興を今後も見守って参ります。

ZIMBABWE ジンバブエ

中退した小学校に戻ってくることができた少女

アフリカ南部にあるジンバブエ共和国のゴクウェ・ノース地区で、ADRA Japanは教育環境包括改善事業を実施しています。活動の一つとして特別開設クラスを開催し、小学校を中退してしまった子どもたちが学校に戻る機会を提供しています。今回はこのクラスの生徒であるフューチャー・ムチンバさんのサクセスストーリーをお届けします。

2016年、フューチャーさんは親が学費を支払えないことを理由に、3年生の時に小学校を中退しました。3年間学校教育から離れていたフューチャーさんですが、2019年にADRA Japanの特別開設クラスの活動を通じて学校に戻ることが

できました。その後一生懸命勉強に励み、2020年に実施された小学校卒業試験に合格。2年遅れとなりましたが、中学校に進学することができました。

フューチャーさんはこの特別開設クラスで、養鶏を用いた生計スキルも学びました。クラスでは2羽のひよこが供与され、彼女はこのひよこを大事に育てました。やがてひよこは成鳥となって産卵し、フューチャーさんはその卵を販売して収入を得ました。そして小学校卒業時にはこの資金を使い、中学校の制服と教科書を購入することができました。

フューチャーさんは現在、中学校での勉学に励んでいます。



1 発災時の写真（熊本日日新聞、2020年、『令和2年熊本豪雨大水害の記録』、p.6） 2 家屋復旧作業の際の専門家による助言



1 小学校に戻ってくることができたフューチャーさん 2 特別開設クラスで勉強をする子どもたち

世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で事業を実施しています。数ある事業の中から、活動の一部をご紹介します。



INDIA

インドのコロナ禍において必要な支援を届けることができます！

インドでは4月に新型コロナウイルス感染症の感染爆発が起き、5月上旬のピーク時には1日に40万人以上の新たな感染者が確認され、毎日3,000人以上が命を落としました。感染があまりに早く広がったため、どの病院も病床が足りず、特に酸素供給不足は深刻でした。この状況に対して必要な支援を届けられるよう、ADRA Japanではご寄付の呼びかけをスタートしました。

皆さまからいただいたご寄付はYahoo! ネット募金およびADRA Japanに直接お送りいただいたご寄付を合わせ、205万円に上りました。このご寄付は世界のADRAネットワークに寄せられた支援金と合わせてADRA India

(インド支部)に送られ、インドの各地の病院に酸素発生装置や酸素濃縮器、医療従事者のための防護服セットなど、治療に必要な医療資機材を届けることができました。

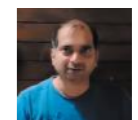
動画でもご覧いただける通り(右記QRコード)、適切な濃度の医療用酸素を用いた治療を受けることができなかったことで病状が長引いていた患者さんも、ADRAから届けた機器による治療により短期間で劇的に症状が回復し、元気な姿を見せてくださいました。

また、ADRA Indiaは現地パートナーNGOと協働でワクチン接種も進め、7月時点で3か所のワクチン接種センターをサポート。合計1万人以上にワクチンを提供しています。



回復の兆しを見せる患者

ADRAスタッフと入院患者さんからのメッセージ



MYANMAR

家を追われたミャンマー避難民のために



ジャングル内における避難生活

ミャンマーでは2021年2月以降の治安悪化の影響で、32万人以上が住む場所を追われ、ジャングルの中に身を隠すなどして避難しています(2021年7月上旬時点)。

ADRA Japanが2013年から人々の生活向上のために学校の校舎建設やトイレ、井戸の設置などに取り組ん

できたミャンマー東部の地域でも、村を離れ、タイ国境付近のジャングルや洞窟などに逃げ隠れ、避難している人々が多数います。また、タイとの国境にあるサルウィーン川を越えてタイ側に逃げようとしている避難民も数多くいます。そして、多くの避難民は、生きていくために最低限必要な食糧や水を得ること

ができず、また命を守る避難シェルターなどに入ることもできない状況です。その中には、小さな子どもや妊娠中の女性、高齢者も含まれています。現地情勢の混乱が長期化する中、今後、支援を必要とする人々が急増すると考えられます。

ADRA Japanは、現地のADRA支部と連携し、タイ国境付近に避難している人々が生き延びるための食糧、水(貯水タンク、ろ過機など)、衛生用品、医薬品、生活必需品(寝具類、蚊帳など)、避難シェルター、新型コロナウイルス感染予防・対処物資などを配付する緊急支援を実施しています。皆さまからの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

クレジットカードによるお支払いでミャンマー事業にご支援いただける方はこちら



ご支援をお待ちしています



継続寄付で世界を変える！ 外出せずに支援を送れる ADRAのマンスリーサポートADRAフレンド

ADRAフレンドになると、災害発生時や世界の厳しい現状を見聞きして心を痛めていた状態から、知ったときには寄付を継続しておいてよかったと思えるようになります。

月に5,000円のご支援が、
ミャンマーで避難生活を送る
1家族が1か月健康を維持
できる最低限のカロリーを
摂れる食料になります。

月に3,000円のご支援が、
ミャンマーで避難生活を送る
10人がジャングルの中で雨風を
しのぐシェルターの材料として
タープシートになります。

応援メッセージ

社会人になった頃に自分の存在意義を考える時期がありました。困っている方を支援できれば、生きる意味があると考えました。必要な地域に必要なタイミングで支援されているADRAのような活動を行う事は、勇気も力量も自分にはありませんが、ADRAフレンドというかたちで、微力ながら事業に参加できることは素晴らしいと思います。
(竹光行助さん/ADRAフレンド)

登録は簡単。

毎月1,000円以上の金額を選んで口座引落かクレジットカードを登録するだけなので、外出せず簡単に支援を継続することができます。

ADRAフレンド等のご支援のおかげで
2020年は、約7,200人に緊急援助を届けることができました。

お申し込みはオンライン(またはQRコード)、もしくは下記、お問合せ先にあります
お電話やメールで申し込み用紙を請求してください!

ADRAフレンドへの
お申し込みはこちら



※「ADRA(アドラ)フレンド」は、1,000円以上の金額を毎月ご寄付いただく継続的なご支援の仕組みです。「ADRAフレンド」を通じたご寄付は、寄付金控除の対象となります。毎年1月に1年分の領収証をまとめてお送りしますので年末調整にお使いください。

お問い合わせ先
ADRA Japan 事務局
TEL: **03-5410-0045**
E-mail: **support_adra@adrajpn.org**
ホームページ: **http://www.adrajpn.org/**



支援物資をボートに積みADRAスタッフたち

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付も常時受け付けております。〈郵便振替〉口座番号:00290-2-34169 加入者名:(特活)ADRA Japan

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 129号 2021年9月1日発行

発行人 浦島 靖成
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 浦島 靖成(常務理事/事務局長)
設立年月日 1985年3月30日

Justice,
Compassion
Love



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所